

あいち・とこなめスーパーシティ構想 基本的な考え方（案）

2020年12月
愛知県・常滑市

この基本的な考え方（案）は、愛知県と常滑市が、民間事業者等と連携しながら、今後、中部国際空港島及びその周辺地域を中心とした地域において、目指していきたいと考えているスーパーシティの姿を取りまとめたものです。

項目

- 主旨
- 対象地域
- 地域の課題とスーパーシティのコンセプト
- フェーズ I・II で実現したいプロジェクトの概要
- データプラットフォーム（都市OS）の構築
- 想定される推進体制
- 全体スケジュール

主旨

- ◆ **中部国際空港島・周辺地域**を中心に、愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」に国際会議や見本市などMICEを誘致し、**わが国を代表する国際観光都市を実現**するとともに、最先端技術・サービスの社会実装フィールドとすることで、**イノベーション創出の拠点化**を進める。
 - ・中部国際空港島・周辺地域を、**最先端技術の実装フィールドの中心**に位置づけ、早期のサービス展開を目指す。
 - ・スタートアップ支援の拠点「**ステーションA i**」の機能を活用し、**国内外の有力なスタートアップと大学、企業を巻き込んだサービス開発・実証が、実用化していくサイクルを形成**する。
 - ・実装フィールドで得たノウハウを元に、**市内・県内へ先端技術サービスの普及を促進し、地域の課題解決を図る**

- 中部地域の空の玄関口として、モノづくりを中心に日本の経済を牽引し、国内外のヒト・モノの交流に大きく貢献してきた中部国際空港島・周辺地域は、近年、ホテルや複合商業施設の開業に加え、愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」や第2ターミナルの開業など、国際交流拠点としての機能が一層充実している。
- 愛知県では、ジブリパーク開業（2022年）、アジア競技大会開催（2026年）、リニア中央新幹線開業（2027年）など国内外から人を呼び込むことができる数多くのビッグプロジェクトを予定している。
- また、愛知県では、国内外の有力なスタートアップ支援機関、大学、企業とも連携した、官民連携によるスタートアップの創出・育成を進める中核拠点「ステーションA i」の整備（2024年）を進めている。
- こうした愛知県の強みを生かし、世界中からヒトや技術が集まるイノベーションの創出を図るための拠点化を進め、自動運転、ロボット、AIなどを活用し最先端の技術・サービスを積極的に導入した、スーパーシティの実現を目指す。

対象地域

地域の概要



◆ 中部国際空港島・周辺地域（愛知県常滑市）

- ・愛知県知多半島の西海岸の常滑市沖海上の人工島（空港島：約580ha、うち空港面積470ha）に、2005年に国内3番目の国際拠点空港として中部国際空港が開港。
- ・2019年度には過去最高の旅客数（1,260万人）を記録。**ジブリパーク、アジア競技大会などのプロジェクトやリニア開業を控え、人の往来はさらに活発化。**
- ・自動運転サービスの実現に向けて、毎年度、実証試験を行い（2017～）、2020年度には実装を見据えて5GやAI技術を活用した実証を行っている。また、空港でのサービスロボットの実証実験を積極的に行うなど、**最先端の技術・サービスの実装フィールドとしてのポテンシャルが高まっている。**
- ・近年のホテル開業に加え、複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」（2018）や第2ターミナル（2019）、愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」（2019）のオープンにより、**賑わい創出と新たな需要の取り込みを図る。**国際拠点空港としての役割を十分に発揮していくために必要不可欠な**二本目滑走路の整備を始めとする機能強化**に向けて取り組んでいる。
- ・対岸部は、空港島と道路・鉄道で結ばれており、特に、空港島の開発用地と対岸部を「中部臨空都市」と呼び、**企業誘致やマンション建設**などが進められている（約30haを分譲中）。



複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」



愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」



中部臨空都市

- 就業人口 17,000人
- 夜間人口 2,000人
- 交流人口 1千万人/年
(2025年の計画)

出典：中部臨空都市
まちづくりガイドライン

対象地域

フェーズⅠ（～2025年）

- 中部国際空港島と対岸部のりんくう町（中部臨空都市）に先端技術サービスの導入を図り、ビジネスモデルを構築する

〔現況〕 空港島と対岸部（りんくう町）

人口 89人（2020年9月末時点）

就業者 約10,000人

空港旅客 1,260万人（2019年度）

※2025年の人口フレーム

（中部臨空都市まちづくりガイドライン（2017年））

夜間人口 約2,000人（常住人口・宿泊滞在人口）

就業人口 約17,000人

フェーズⅡ（2026年以降）

- フェーズⅠで実現したサービスについて、常滑駅周辺等市街地への展開を図る

フェーズⅢ（2030年頃）

- 市内、県内の課題解決のための展開を図る

西知多道路と接続予定

名古屋まで最速29分で移動

〔サブフィールド〕
ジブリパーク
ステーションAi
愛知県新体育館
アジア競技大会

フェーズⅡ

フェーズⅠ

二本目滑走路の整備
を始めとする機能強化

名古屋鉄道

セントレアライン

サブフィールドへの展開

- フェーズⅠの早期実装拠点で導入する技術やサービスについて、県内で予定しているプロジェクト事業と連携し、スーパーシティのサブフィールドとして、先端技術を活用したサービスの横展開を図る。

<県内の主なプロジェクト>

ジブリパーク（2022年）

ステーションAi（2024年）

愛知県新体育館（2025年）

アジア競技大会（2026年）

<連携サービス例>

- ・完全無人EV自動運転車両の実装
- ・車室空間体験を伴う移動をテーマとした新たな自動運転車両の導入
- ・5G、AIなどの先端技術を活用した施設運営



地域の課題とスーパーシティのコンセプト

地域の課題

顕在化している地域課題

<空港島・周辺地域>

- 集客増、混雑集中時の交通事業者間の連携、空港島内駐車場の不足
- 賑わいの少ない空間（道路、駐車場）
- 24時間利用可能な移動手段や飲食娯楽施設等の不足
- 空港島内施設群の回遊、空港島と近隣地域を結ぶ移動手段の不足
- 災害時の孤立化の可能性
- 新型コロナウイルス感染症により落ち込んだインバウンド客の早期回復

<常滑市>

- 市内を移動するための公共交通網の不足
- 空港島・周辺地域への来訪者の市街地等への誘導

<愛知県>

- 自動運転、ロボット、水素エネルギー活用など次世代技術の実証実績はあるが、実装段階へのステップアップが必要
- 歴史、産業などの観光資源を生かした観光地としての魅力発信、集客、誘導
- 人口減少社会における労働力確保、多様化、グローバル化、DXへの対応

将来を見据えた課題

- 大型プロジェクト等による交流人口増加への対応
- 国際観光都市としての魅力向上
- 多様なニーズに応える都市機能の強化
- 回遊機能（移動サービス）の充実
- アクセス性の強化
- 安全確保のための災害対策機能の強化
- コロナ後の社会に対応したサービスの提供
- 多様なニーズに応える都市機能の強化（再掲）
- 空港と地域の一体的な発展
- ものづくり産業を牽引
- スタートアップの育成・誘引
- 大型プロジェクト等による交流人口増加への対応（再掲）
- 都市のデジタルトランスフォーメーション
- 全ての人にやさしい持続可能なまちづくり

コンセプト

- ・実装できる先端技術をまるごと取り込み、世界No.1の国際観光都市を実現
- ・テクノロジーで、空間・時間マネジメントの新たな形を提案
- ・世界中からイノベーターを集め、最先端を創り続けるショーケース

フェーズI・IIで実現したいプロジェクト

未来を先取りする移動・物流システム

- (1) 自動運転車や空飛ぶクルマなどで、世界のヒト・モノの輸送をリードする
- (2) モビリティ情報と施設利用データの連携により、24時間シームレスな移動・物流の実現と、スムーズな回遊と賑わいの両立を実現

すべての人々に満足を届ける最先端おもてなしサービス

- (3) 顔認証等を活用したOne ID化により、世界最高レベルのファストトラベルとエリア内のあらゆる施設のサービスで完全キャッシュレス化を実現
- (4) オプトインデータの連携による上質なサービスで、高いリピート率を実現
- (5) 愛知のすべてを体験できるバーチャル空間で地域の魅力を発信

ゼロ・カーボンで世界最高水準のレジリエンス機能の実現

- (6) 水素エネルギーやEMSにより、地球にやさしく災害に強いまちを実現
- (7) インフラDXにより、保守点検と情報管理の効率化・自動化を実現

人口減少社会にふさわしい人に優しい社会の実現

- (8) 医療・健康データをマネジメントし、健康寿命の延伸と医療費削減を実現
- (9) デジタル技術が暮らしや学びをサポート、全ての人々が活躍できるまちに

世界最先端を創り続けるイノベーションエコシステムの構築

- (10) 大胆な規制緩和とワンストップ手続等により、早期実装を可能とする環境を整備

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

未来を先取りする移動・物流システム

移動

物流

支払い

防災・安全

〔目指す姿〕・いつでも自由にPoint-to-Pointの移動・輸送を可能に
・人とモビリティが共存する新しい空間マネジメント実現
・観光地を魅力的に見せる移動、健康管理など、モビリティの新たな価値を創出

◆実装するサービス

(1) 自動運転車や空飛ぶクルマなどで、世界のヒト・モノの輸送をリードする

① <自動運転・自動搬送サービス>

完全無人の巡回型移動バスや自動搬送ロボット等が、空港島内の回遊ならびに空港島外からの移動と輸送を完全サポートする移動・物流ネットワークを構築。

- ・需要予測による自動運転シャトルバス等の運行システム
- ・オンデマンド型自動運転サービス
- ・パーキング需要予測、駐車料金のダイナミックプライシング
- ・自動バレーパーキングと自動運転で空港島と対岸部の連絡
- ・空港島と常滑市内で自動運転車両を共有し、需要に応じた最適配車管理による運用
- ・物流情報を統合した最適配送システム
- ・自動走行ロボットによる荷物配送
- ・自動運転技術を活用した道路パトロール、道路清掃、融雪作業、道路規制作業
- ・消防、救急活用情報をデータ化し、AI分析による最適配車と自動運転による消防、救急体制

② <空飛ぶ車やドローンによる空の移動・物流サービス>

空域管理システムによる有人機、無人機の飛行管理の下、ドローンによる物流やインフラ点検、空飛ぶ車での移動・輸送などの安全な運用を実現。また、災害時は物資輸送などで人々の安全確保に寄与。

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

未来を先取りする移動・物流システム

移動

物流

支払い

防災・安全

(2) モビリティ情報と施設利用データの連携により、24時間シームレスな移動・物流の実現と、スムーズな回遊と賑わいの両立を実現

③ <スマートモビリティサービス>

陸海空すべての移動情報や空間（道路、駐車場、歩道等）情報、イベント等の開催情報などのデータ連携システムを構築し、初めての人にも優しいスムーズな移動サービスや移動・物流のピークシフトなどを実現。

- ・自動運転車、シェアリングパーソナルモビリティ、電動車いす等で全ての人に快適な島内移動
- ・多方面から空港島に来訪する方に最適な到着をナビゲート
- ・AIによる交通解析、ダイナミックプライシングによるイベントピーク時の渋滞解消
- ・モビリティ利用と移動先の施設や飲食店等の利用を合わせた検索・予約・決済を一括するMaaSサービス
- ・行き先に応じてポイント付与するダイナミックプライシングにより、混雑状況に応じた観光客の分散を図る
- ・目的地や位置情報、道路混雑状況に応じ、音声コンテンツや周辺施設広告やサービス情報を配信
- ・自動運転、パーソナルモビリティ、歩行者が共存する賑わい空間を創出

④ <新しいモビリティの価値創出>

単なる移動・物流機能の提供に留まらない、モビリティの内部空間を活用した新しい価値を創出。

- ・シェアオフィス、シェアミーティングスペース、旅行体験、バーチャル空間での会議・商談など

◆ 必要な規制緩和

道路交通法、道路運送車両法、航空法、電波法、道路運送法

◆ 連携すべきデータ

公共交通データ、道路交通データ、駐車場データ、空域データ、物流データ、位置データ、人流データ、気象データ、インフラデータ、地図データ、観光・施設データ（展示場、店舗、商業施設、飲食店等の情報）、エネルギーデータ、医療・健康データ、利用者データ（決済情報）等

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

すべての人々に満足を届ける最先端おもてなしサービス

移動

物流

支払い

行政

〔目指す姿〕・搭乗手続き、出入国手続き、支払い全て「顔パス」
・スーツケース、手荷物、ショッピングバッグは自動搬送
・はじめての海外からの来訪者でも迷わない・困らない、パスポート要らずの手ぶら観光都市

◆実装するサービス

（3）顔認証等を活用したOne ID化により、世界最高レベルのファストラベルとエリア内のあらゆる施設のサービスで完全キャッシュレス化を実現

⑤<OneID・キャッシュレスサービス>

顔認証等による旅客手続のOneID化、将来的にはパスポートレス、手ぶら旅行を実現する。ID情報を連携し、展示場のチケットレス入退場、ホテル自動チェックインサービス、キャッシュレス支払いサービス等を実現。

非ETC車のキャッシュレス対応、PAでのETC決済サービス

（4）オプトインデータの連携による上質なサービスで、高いリピート率を実現

⑥<パーソナルコンシェルジュ>

オプトイン方式によって収集された購買や施設利用等のパーソナルデータを基に、利用者の属性に応じたプッシュ型のサービスを提供。

- ・ターミナルビル内で、搭乗口までの順路、保安検査時間、出発までの過ごし方などを提案
- ・多言語対応で、集客施設のリアルタイムの混雑状況を案内
- ・ニューノーマル時代のまちなか観光を案内し、混雑なしで余暇時間を有効活用
- ・おもてなしパッケージ、ウエルカムパッケージ、ものづくり視察パッケージ等の提案機能によりアフターコンベンションを充実
- ・大規模イベント時の人の誘導や島内トイレ案内（人流マネジメント）
- ・来訪者の行動、移動データを分析してマーケティングに利用

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

すべての人々に満足を届ける最先端おもてなしサービス

移動

物流

支払い

行政

(5) 愛知のすべてを体験できるバーチャル空間で地域の魅力を発信

⑦ <バーチャルあいち>

愛知の主要観光地などをバーチャル体験できるサイバーモールを構築し、観光地までの移動と施設利用等をパッケージにした デジタルチケット提供や物販を実現。

◆ 必要な規制緩和

旅券法、外国人観光旅客の来訪の促進等による国際観光の振興に関する法律

◆ 連携すべきデータ

公共交通データ、道路データ、駐車場データ、空域データ、物流データ、位置データ、人流データ、気象データ、インフラデータ、地図データ、観光・施設データ（展示場、店舗、商業施設、飲食店等の情報）、利用者データ（顔認証情報、旅券情報、年代、性別、言語、決済情報、施設利用・購買等の行動履歴など）等

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

ゼロ・カーボンで世界最高水準のレジリエンス機能の実現

エネルギー

行政

防災・安全

〔目指す姿〕・再生可能エネルギーや余剰エネルギー等有効利用によりCO2排出削減を実現

- ・施設間でエネルギーを融通し、ピークシフトを実現
- ・外部電源が途絶えても長時間（最大1週間）自立稼働できるレジリエントなまち

◆実装するサービス

（6）水素エネルギーやEMSにより、地球にやさしく災害に強いまちを実現

⑧<クリーンエネルギー>

水素エネルギーの利活用モデルを構築し、エリア内の全サービスモビリティのEV、FCV化を実現。

⑨<次世代エネルギーマネジメントシステム>

施設、店舗、モビリティ、蓄電池所などのエネルギー融通システムを実現し、都市空間のエネルギー構成の全体最適化を図り、平時は余剰エネルギーの有効活用、災害時は長期間にわたり人々の安全を確保。

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

ゼロ・カーボンで世界最高水準のレジリエンス機能の実現

エネルギー

行政

防災・安全

(7) インフラDXにより、保守点検と情報管理の効率化・自動化を実現

⑩ <次世代アセットマネジメント>

インフラ管理へのAI・IoTを始めとした最先端技術の導入、インフラデータベースの全デジタル化により、都市インフラ部門の業務効率化・自動化を実現。

- 上下水道、電気、ガスなどのインフラ埋設・架設データを統合し維持管理の円滑化
- 交通情報、道路情報の集約、AI分析による管制監視業務の効率化
- 道路懸垂幕のデジタルサイネージ化
- 交通規制時の規制材にプロジェクションマッピングを活用し、作業の安全性確保と効率化

◆ 必要な規制緩和

電気事業法、計量法、道路法、道路交通法

◆ 連携すべきデータ

道路交通データ、気象データ、インフラデータ、地図データ、観光・施設データ（バックアップ電源等）、エネルギーデータ、ライフラインデータ、利用者データ等

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

人口減少社会にふさわしい人に優しい社会の実現

行政

医療

〔目指す姿〕・将来のあらゆるリスクに対処し、人々の安全と健康を常に見守る

◆実装するサービス

(8) 医療・健康データをマネジメントし、健康寿命の増加と医療費削減を実現

⑪<健康情報管理システムによるヘルスケア>

主にエリア内で働く人を対象に、病歴、医療データ、ウェアラブル端末等による日常の健康データ等を解析する健康情報管理システムを構築し、健康状態を最適管理することにより、未病からのリスク評価、労働事故や職業病予防等による健康寿命の延伸を実現。

(9) デジタル技術が暮らしや学びをサポート、全ての人が活躍できるまちに

⑫<ライフサポート・プラットフォーム>

ライフライン情報や行政情報をデジタル化して様々な人の暮らしをサポート。

- ・都市情報のデジタル化により災害に強いライフラインを構築
- ・行政機能を仮想空間に移動したデジタルサービス
- ・利用者の同意に基づき、転入情報を電気、水道、ガスなどのライフライン事業者が情報共有してワンスオンリー手続

◆ 必要な規制緩和

医療情報の取扱いに関する制度等

◆ 連携すべきデータ

インフラデータ、地図データ、医療・健康データ、ライフラインデータ（光熱水、通信、不動産等の事業者登録データ）、利用者データ等

フェーズI・IIで実現したいプロジェクトの概要

世界最先端を創り続けるイノベーションエコシステムの構築

〔目指す姿〕・世界から人と技術が集まる先端技術ショーケース都市

◆実装するサービス

(10) 大胆な規制緩和とワンストップ^o手続等により、早期実装を可能とする環境を整備

⑬<オープンイノベーションエリアの創出>

開発から実装まで連続して行える巨大な実装フィールドとして空港島・周辺地域を活用。

スタートアップ企業と大企業・事業会社との共創によるオープンイノベーションを促進。

- ・開発に必要なデータ利用や事業実施に係る手続のワンストップ化
- ・ビッグデータを活用したプロダクト開発
- ・最先端テクノロジーを活用したプロダクト見本市として、イノベーターの来訪を創出

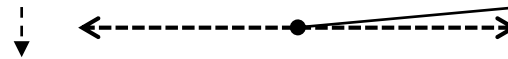
⑭<スーパーシティの深化と市内展開>

市民の利便性向上につながる先端的サービスの取組を積極的に取り入れ、新たなグリーンフィールド開発を呼び込む等、スーパーシティの深化と横展開により空港と地域の一体的な発展を実現

- ◆ 連携すべきデータ
ビッグデータをセキュリティに配慮して解放

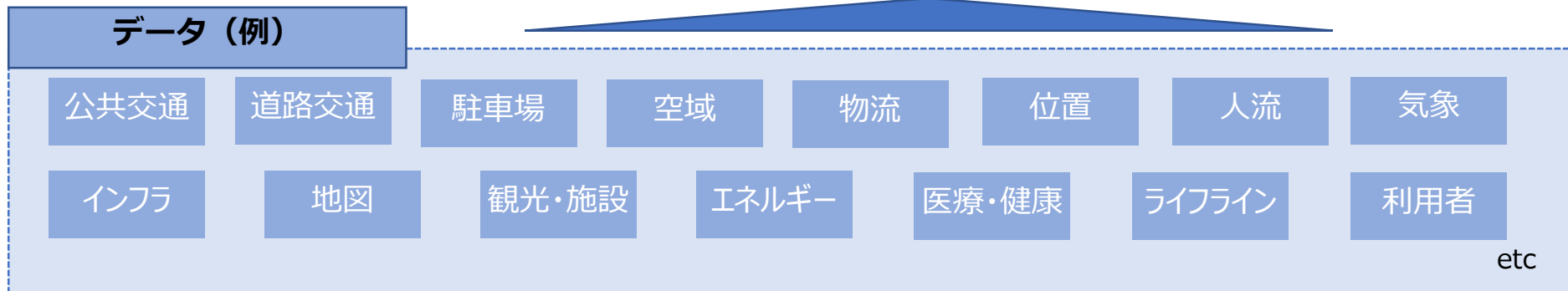
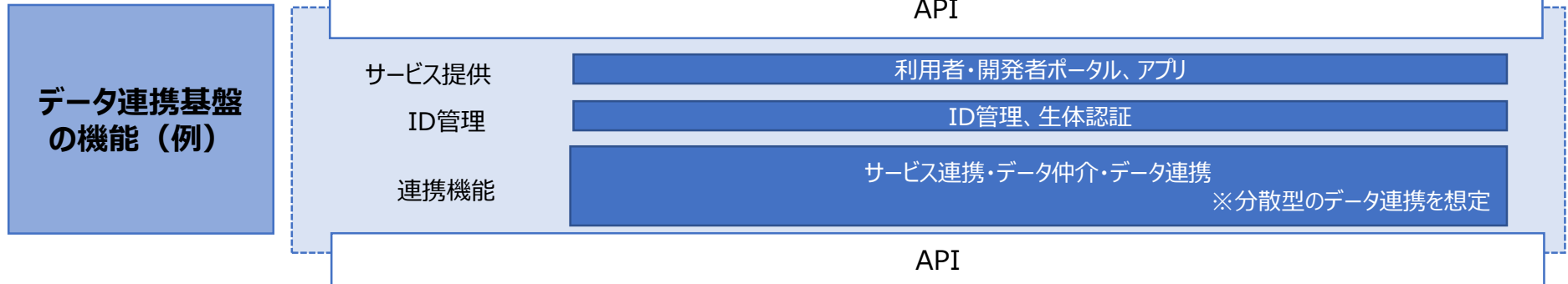
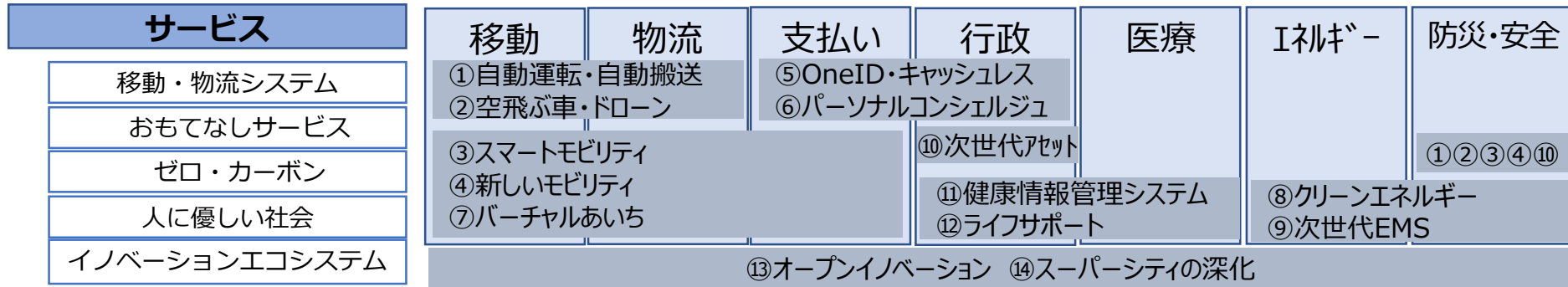
各プロジェクトの事業化工程

都市OS構築の目安 各サービスのトライアル期間（3年程度）



	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026～2030年
①自動運転・自動搬送	基礎調査、運用モデル検討、実証実験、				島内周回	島外でのサービス
②空飛ぶ車・ドローン	基礎調査、機能検討			実証試験・実用性検証		ドローン輸送 空飛ぶ車周遊サービス
③スマートモビリティ	基礎調査、運用モデル検討、実証実験				島内サービス実装	島外施設や観光地等と連携したサービスの実装
④モビリティ価値創出	基礎調査、機能検討			実証実験		サービス実装
⑤OneID・キャッシュレス	基礎調査、運用モデル検討			実証試験	サービス実装	パスポートレス手ぶら観光
⑥パーソナルコンシェルジュ					サービス実装	行動データ等の活用
⑦バーチャルあいち	基礎調査、機能検討			実証実験		サービス実装
⑧クリーンエネルギー	基礎調査、運用モデル検討		エリア内車両のEV、FC化			低炭素水素サプライチェーンの構築
⑨次世代EMS			実証試験	システム実装・運用、		
⑩次世代アセットマネジメント	基礎調査、機能検討				実証試験	実装・運用実用性検証
⑪健康情報管理	基礎調査、運用モデル検討			実証試験		運用・検証
⑫ライフサポートプラットフォーム	基礎調査、運用モデル検討			実証試験		運用・検証
⑬オープンイノベーションエリア	新プロダクトの開発、実証環境の整備、プロダクト開発のトータルサポート					
⑭スマートシティの深化・市内展開	新たな展開フィールドの開拓、サービスの横展開					

データプラットフォーム（都市OS）の構築



データ連携例

											プロジェクト					
公共交通 (電車・バス・航空機運行情報等)	道路交通 (自動車交通量等)	駐車場 (満空情報等)	空域 (有人機・無人機飛行情報等)	物流 (荷物・運送車データ等)	位置 (車両・利用者位置等)	人流 (歩行者等混雑情報等)	気象 (気温・雨量・風等の観測・予測)	インフラ (道路・信号・地下埋設物等)	地図 (国土地盤・道路等)	観光・施設 (観光地・イベント・飲食店等)	エネルギー (電力消費・蓄電池等)	医療・健康 (病歴等)	ライフライン (電気ガス等事業者契約データ等)	利用者 (認証情報・旅券情報・決済等)	→	① 自動運転・自動搬送サービス
														→	② 空飛ぶ車やドローンによる空の移動・物流サービス	
														→	③ スマートモビリティサービス	
														→	④ 新しいモビリティの価値創出	
														→	⑤ OneID・キャッシュレスサービス	
														→	⑥ パーソナルコンシェルジュ	
														→	⑦ バーチャルあいち	
														→	⑧ クリーンエネルギー	
														→	⑨ 次世代エネルギーマネジメントシステム	
														→	⑩ 次世代アセットマネジメント	
														→	⑪ 健康情報管理システムによるヘルスケア	
														→	⑫ ライフサポート・プラットフォーム	
														→	⑬ オープンイノベーションエリアの創出	
														→	⑭ スーパーシティの深化	

想定される推進体制

県・市・サービスを展開する民間企業等による官民連携の協議会を設置し、**都市計画の全体マネジメント、都市OSの運営管理**などを行う

スーパーシティ推進協議会

事務局

外部監視委員会

セキュリティ監視、チェック

企画・運営委員会

全体戦略の策定、規制緩和、整備計画検討
都市OSの整備、運営管理

- ・県：アーキテクトと連携してスーパーシティ推進
- ・市：住民合意等の地元調整
- ・民間等：全体構想と足並みを揃えた個別分野の取組推進

アーキテクト

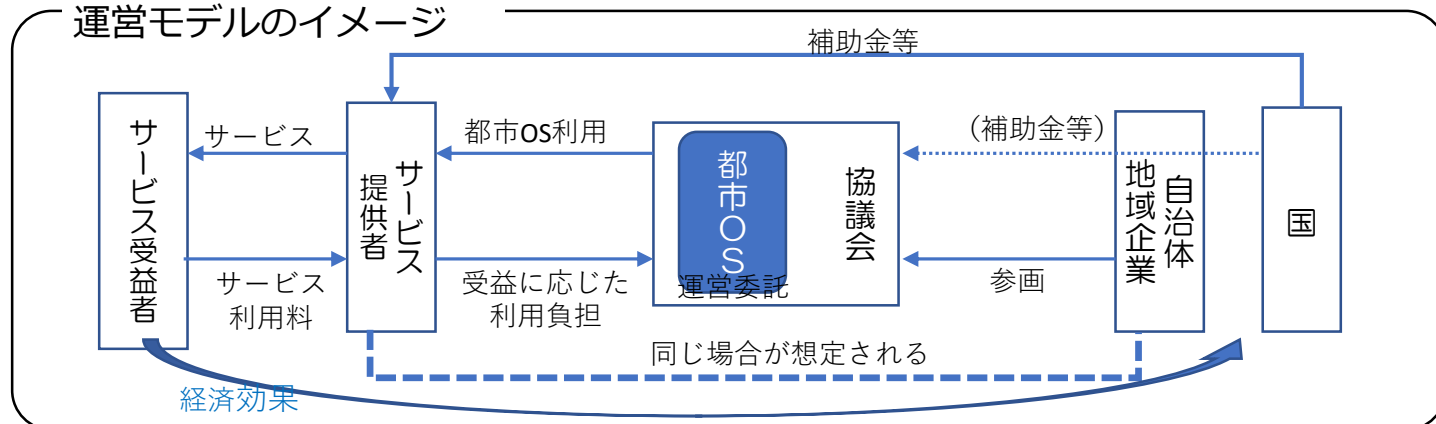
全体構想をリード

各プロジェクトのWG

都市OSの運営管理

ベンダーへの委託を想定

運営モデルのイメージ



経済効果

全体スケジュール

項目	2020	2021	2022	2023	2024	2025
全体マネジメント		基本構想	基本構想	都市OS構築		順次 サービス 実装
プロジェクト		ビジネスモデルの検討	導入可能性調査	要求水準書作成・事業者選定	事業着手・整備	
手続	応募	区域 指定	住民 合意	区域 会議		

用語解説①

用語	解説
M I C E	企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、ビジネスイベントの総称。
ダイナミックプライシング	商品やサービスの価格について、一定の標準価格を設定し、その商品・サービスの売れ行きや需要、混雑具合などの状況に応じて価格を随時変動させる仕組み。
バレーパーキング	駐車する際に運転手に代わって係員やIoT機器との連携による自動搬送機械によって駐車作業を行うサービス。
パーソナルモビリティ	街中での近距離移動を想定した1～2人乗りの小型電動コンセプトカーなどの総称。
M a a S	「Mobility as a Service」の略。出発地から目的地までの移動に対し、様々な移動手段・サービスを組み合わせて一つの移動サービスとして捉えるもの。
オプトイン（オプトインデータ、オプトイン方式）	加入や参加、許諾、承認などの意思を相手方に示すこと。対象者から明確に許諾を得ない限り実施しない（あるいは、してはならない）とする原則のことを「オプトイン方式」という。
アフターコンベンション	見本市・シンポジウム・博覧会などのコンベンションの後に行われる催しや懇親会、周辺観光などのこと。
レジリエンス（レジリエント）	想定外の事態に対して社会や組織が機能を速やかに回復する、回復力や強靭さを意味する概念。
クリーンエネルギー	地球温暖化の原因であるとされる二酸化炭素(CO ₂)や、大気汚染の原因となる硫黄酸化物(SO _x)、窒素酸化物(NO _x)などを排出しない、または排出量の少ないエネルギー源を指す。

用語解説②

用語	解説
EMS	エネルギーマネジメントシステムの略。ICTを用いて電気、ガス、熱などのエネルギーの使用状況の見える化や最適運用により、省エネおよび負荷平準化など、エネルギーの効率的利用を実現するシステム。
EV	電気自動車の略。自宅や充電スタンドなどで車載バッテリーに充電を行い、モーターを動力として走行する。
DX（デジタルトランスフォーメーション）	将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。
アセットマネジメント	現在のサービスレベル（劣化・損傷具合）を評価するとともに、その維持・補修・更新の順位付け、または実施時期を適切に評価し、必要な費用を最小限に抑えながら質の高いサービスを提供し、資産価値を最大化すること。ここでは特に、社会基盤（インフラ）についてアセットと定義する。
ワンスオンリー	行政手続き等に際して、一度提出した情報は再提出不要（ワンスオンリー）とすることを原則とし、効率化を進めていくこと。
オープンイノベーション	組織内部のイノベーションを促進するために、意図的かつ積極的に内部と外部の技術やアイデアなどの流動性を高め、組織内で創出したイノベーションを組織外に展開すること。
グリーンフィールド開発	建物や工場などが建っていない更地の土地に新規の開発を行うこと。
都市OS	スマートシティ（またはスーパーシティ）実現のために、スマートシティを実現しようとする地域が共通的に活用する機能が集約され、スマートシティで導入する様々な分野のサービスの導入を容易にさせることを実現するITシステムの総称。